

教宣 せぶん

健康な時にこそ読む資料

2007年春闘機関用討議資料『明日への視座定め、主張する2007年春闘』という討議資料をご存知でしょうか。「この討議資料は第86回中央委員会議案の補足資料です。議案のポイントを資料や論評などで説明しているものであり、ともに活用くださるようお願いいたします。」と書いてあります。昨夜行なわれた本部オルグに参加してこの資料をもらいましたが、目を通していくと、ここに書いてあることに引き込まれていきました。「その通りだよな」「そういうことだったのか」という記事が目白押しでした。社会の仕組みや世の中の流れが良くわかります。いま私たちの身の回りに起きているできごとが、どういう背景で、どういう土壌があって、かたちになってあらわれてきているのか、よく理解できます。私たちのたたかいについても、コンパクトに、要旨が書き込まれており、わずか2ページの中にすべてが網羅されているといっても過言ではない内容になっています。「どなたが作った資料かわかりませんが、すごい資料ですね」と思わずオルガナイザーに語りかけました。

もし、私が全損保に残るという決断をしなかったら、この資料にはお目にかかれなかったでしょう。仮に残ったとしても、自らの生活や雇用が破壊されようとしなかったら、この資料の「わかりやすさ」に気づいたか疑問です。会社から虐げられ、横暴を受け、どうして会社がこういう出方をしてきたのかを自らも考えざるをえなかったからこそ、この資料に「目からウロコが落ちる」思いになったのだと思います。しかし、本当はそれではいけないのだと思います。

先日行なわれた臨時大会で、「私は発病してしまい、仲間に代行をお願いせざるをえない状況になっています。そんな私から見れば、ストを実施することで仮に少々の収入ダウンになったとしても、そんなことは些細なことだと思います」という趣旨の発言がありました。病に伏せた時に、いままで当たり前前に過ごせたことが、実はどれだけありがたいことだったかに気がつくことがあります。健康な時にこそ、いまの自分の健康のありがたさについて気がついて欲しい、言い換えれば、「いまこそたたかいの重要性について考えよう」という先輩の貴重な意見でした。

できれば、病気になった時ではなく、健康な時にこそ自らの健康に感謝したいものです。「あたりまえ」「ふつう」に感謝したいものです。いま全損保に所属する少しでも多くの人に『明日への視座定め、主張する2007年春闘』という資料の物すごさを感じてもらいたいと思います。